

2024年度 授業改善推進プラン(全体計画)

学校経営方針(学力向上に関わる要点)
授業改善を進め、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と思考力、判断力、表現力等の育成とともに、主体的・対話的で深い学びを実現する。 (1)「授業をデザインする8つの取組」を踏まえ、子供が「分かる できる つくる 楽しい授業」を展開する。 自分の考えを多様な方法で表現させ、協働的な学びを充実させる。 (2)学習への興味・関心を高め、主体的に学び続ける子供を育てる。 充実した言語活動の指導の工夫を研究テーマとし、主体的に学びに向かう児童を育てる。 chromebookの活用を推進し、めあてに応じてICTを活用できる力を育てる。

授業改善の重点
児童自身が自己有用感を感じ、できたこと・分かったことを実感できるよう計画的に授業を進めていく。その上で、振り返りの時間を設定し、1時間の中でできるようにしたこと・単元の中でできるようにしたことなど、自分の成長を確認できる場を確保していく。 本年度は「授業をデザインする8つの取組」のうち、次の4つを重点とし、授業改善を進めていく。 「見通しをもたせる導入」「価値ある対話の共有」「ICT機器の活用」「振り返りの設定」

	国語科	音楽科	総合的な学習の時間の指導の重点	特別の教科 道徳の指導の重点
各教科の指導の重点	(低学年)読解のためのキーワードを丁寧にひろい、叙述に即して読み取らせる。 (中学年)叙述をもとに意見を考え、対話的な活動を取り入れることで、様々な意見との違いに気づかせる。 (高学年)叙述に即した根拠のある意見を考え、対話的な活動から意見を比較し、考えを深めさせる。	(低学年)身近な打楽器に触れ、表現する楽しさを味わわせる。 (中学年)さまざまな楽器に触れ、友達と合わせることを通して、合奏や合唱の良さがわかる授業を展開する。 (高学年)リコーダーをメインとして基本的な奏法を着実に身に付けさせるようにする。	(中学年)地域の自然や文化財、人に愛着をもち、活動を進められるようにする。 (高学年)探求すること、体験することを通して、課題を見出し、他者と協力して主体的に解決できるような活動をする。	道徳授業地区公開講座を設け、地域・家庭への啓発をする。 一人一人がよりよい生き方を目指すような指導をする。 様々な価値項目の教材を取り上げ、偏りなく指導していく。 ロールプレイや役割演技を積極的に取り入れることを通して、他者の立場に立って考えることができるようにする。 自分の日常生活の場面と結びつけて考えていけるような指導をする。
	社会科	図工科		
	(中学年)写真やグラフなどの読み取り方を重点的に指導することを通し、その背景にある人々の努力や工夫を読み取れるような授業展開をする。 (高学年)基本的な資料の読み取りや活用の視点をしっかりと押さえ、習慣化させる。	(低学年)ものを作ったり鑑賞したりする楽しさを感じることが出来る活動をする。 (中学年)さまざまな表現の仕方を知り、それを生かして作り出す喜びや楽しさを体験できるようにする。 (高学年)さまざまな材料、用具、技法を使い、満足感が味わえる題材を設定する。		
	算数科	家庭科		
	(低学年)具体物を操作することで、文で表した算数場面を理解させる。 (中学年)Navima等を活用しながら、四則計算の基礎を確実に身に付ける。複数の求め方を比べ、早く簡単に正確に求める方法を見つけるようにする。 (高学年)基本の計算問題でも時間のかかる児童がいるため、反復練習を積極的に取り入れる。	よりよい生活を目指すための家庭科における4つの視点を意識させ、生活の見方・考え方を働かせて学習に取り組ませる。 知識及び技能面では「初めて」から段階を経て徐々にステップアップし、裁縫・調理に関しての基礎基本が定着する活動をする。		
	理科	体育科		
	(中学年)実験方法や考察の場面では、思いや考えを友達に伝えることができるようにする。 (高学年)生活経験から事物の現象について推察し、問題解決の能力を育成していく。	(低学年)安全にルールを守って、体を動かす楽しさを味わわせる。 (中学年)児童の能力に合わせ、多様な場を設定し、グループ活動を取り入れ、互いに技能向上できるような指導をする。 (高学年)伝え合い、教え合いができる場を設定し自分たちで学習を進めることができるように指導する。		
生活科	外国語科(5・6年生)			
(低学年)鶴一小の特色ある活動を計画的に進め、地域の良さに気付けるような活動をする。 地域の自然や人に愛着をもち、それらとの関わりを大切にする。	中学年で外国語活動からの積み重ねを意識した授業を構成する。授業中に行うアクティビティを、読み・書きの時間とのバランスを取りながら進めて行く。 単元末テストだけでなく、パフォーマンステストを取り入れ、「使える英語」を目指す。			

	ICT機器の活用	価値ある対話の共有	振り返りの設定
本校の授業改善に向けて	映像資料や意見交流の場として、ICT機器を取り入れていく。反復学習及び多様な表現方法を身に付けさせるために、ICT機器を活用する。	教師が児童の発言を積極的に価値付けし、発言のしやすい環境を構築し、また全体で考えを共有できる時間を設定する。	1時間の終わりや単元の終わりに振り返りの時間を設定し、学習時間の中でできるようにしたこと、自分の成長などを見つけるようにする。